ご注意：

本書は取り扱い説明書から注意文など、製品の操作方法について直接関係のない部分や余白などを削除、修正したものです。操作方法が分からなくなったが説明書が手許にないとか、製品に興味があるが操作方法はどのようになっているのか先に知りたい、といった場合にお使い頂く事を念頭に編集しており、正しくお使い頂くためには必ず製品に同梱されている説明書をお読み下さい。又、本書が完全な説明書では無いことに対するクレームは一切お受け致しませんので、予め御理解ください。

尚、正式な説明書は無線機販売店でご購入いただけます。詳しくは下記の弊社ウエブサイトをご参照ください。

http://www.alinco.co.jp/denshi/14.html

アルインコ株式会社 電子事業部

東京営業所	〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3番4号日本橋プラザビル14階	☎ 03-3278-5888
大阪営業所	〒530-0004 大阪市北区堂島浜1丁目2番6号新ダイビル9階	☎ 06-4797-2135
福岡営業所	〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1丁目3番6号第3博多偕成ビル7階	☎ 092-473-8034

お買い上げの販売店または、フリーダイアル 0120-464-007

全国どこからでも無料で、サービス窓口につながります。受付時間／10:00～17:00月曜～金曜(祝祭日は除きます)

PS0437

ALINCO

特定小電力ハンディトランシーバー
（総務省技術基準適合品）

DJ-P21

取扱説明書

アルインコのトランシーバーをお買い上げいただきましてありがとうございます。本機の機能を充分に発揮させ、効果的にご使用いただくため、この取扱説明書をご使用前に最後までお読み下さい。また、この取扱説明書は大切に保管して下さい。ご使用中の不明な点や不具合が生じた時、お役に立ちます。

アルインコ株式会社

使用前のご注意

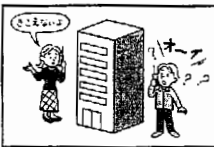
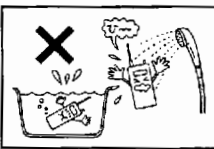
●ご使用環境
高温、多湿、直射日光の当たるところ、ほこりの多い場所は避けてお使いください。

●交信距離
交信のできる距離は周囲の状況によって大きく異なります。
※ショートタイプアンテナでは、約3割ほど短くなります。

大体の目安	
海　上	：3km
ゲレンデ	：2km（見通しの良い所）
郊　外	：1～2km
市街地	：100～200m

●分解しないで
改造、変更は禁止されています。分解したり内部を開けることは絶対にしないでください。

●障害物
本機に採用されている電波は直進性が高いため、間にビルや橋脚、又は山や丘陵等の障害物があると交信できる距離が短くなります。

●ご使用禁止場所
本機は総務省技術基準適合品ですが、使用場所によっては思わぬ電波障害を引き起こすことがあります。次のような場所では使用しないでください。航空機内、空港敷地内、新幹線車両内など。また日本国内でのみ使用してください。

●水につけないで
防水設計ではありませんので、図のようなご使用は避けてください。なお、水、雪等が付いた時はすぐにふき取ってください。

機能と特長

●単信通話用20CH、レピーターアクセス用27CHを搭載

●業界初！DIY（Design It Yourself）コンセプト
自分でデザインしたフェイスシートで、オリジナルトランシーバーに変身します。

●単三乾電池 2本仕様のシンプル＆コンパクトボディ
名刺サイズ（90mm×55mm）に匹敵するコンパクトサイズです。

●用途に応じて2タイプのアンテナを用意
電波の飛びを重視したロングタイプと、携帯性を重視したショートタイプのアンテナを使っています。
※アンテナは取り外せません。

●9種類のトーン出力機能
※トーンスケルチ［グループトーク］機能ではありません。

●新開発のコードスケルチ機能

●個別呼び出し機能
無線インターホンのような使い方が可能です。

●レピーターアクセス機能

●セキュリティ機能
簡易警報機として活用できます。

●緊急通報機能

●ケアモニター機能
乳幼児や病人の監視に活用できます。

●送信禁止機能
受令専用機として使用できます。

●蚊除け音発生機能

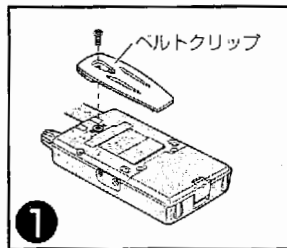
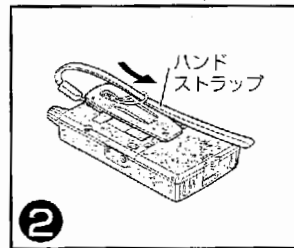
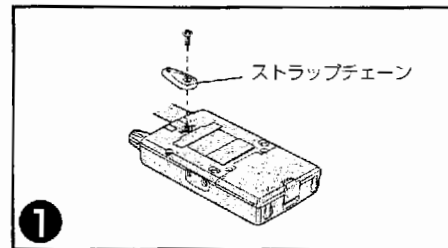
●本体にトリクル充電回路内蔵
外部電源端子付きです。

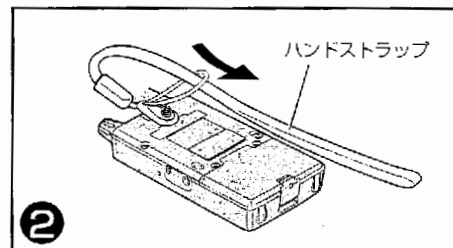
付属品と取り付け方

付属品

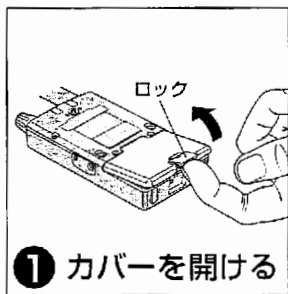
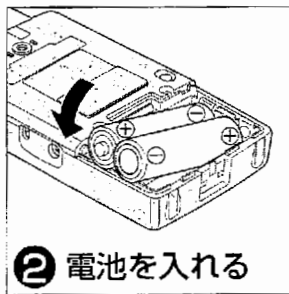
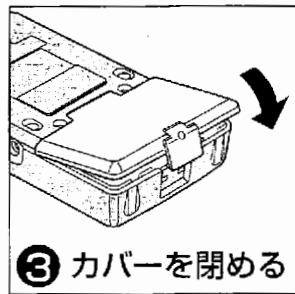
開封しましたら、付属品をご確認ください。

- □ ベルトクリップ
- □ ハンドストラップ
- □ ストラップチェーン
- □ セキュリティケーブル
- □ フェイスシート一式
- □ 取扱説明書
- □ 保証書

ベルトクリップの取り付け

ベルトクリップを付属のネジで本機に取り付けます。

ハンドストラップを、ベルトクリップと本機の溝の間に取り付けます。

ストラップチェーンの取り付け

ストラップチェーンを付属のネジで本機に取り付けます。

ストラップチェーンの穴にハンドストラップを取り付けます。

まず使ってみましょう　電池の入れ方

本機を初めてお使いになる前に、電池を入れてください。

①ロックを外します。
②カバーを開けます。

ケース内の＋・－の印と合わせて、新しい単三型乾電池を2本入れます。

①ツメを合わせます。
②カバーを閉めます。
③ロックをかけます。
→きちんと閉まったことを確認してください。

まず使ってみましょう　もっとも基本的な使い方

本機の最も基本的な使い方を説明します。

1 電源を入れる

電源スイッチを上方向にスライドさせます。

2 チャンネルを合わせる

ダイヤルを回して、相手機と同じチャンネルに合わせます。

チャンネル・音量が表示されます。

3 送信する

PTTキーを押しながら、マイクに向かって話します。

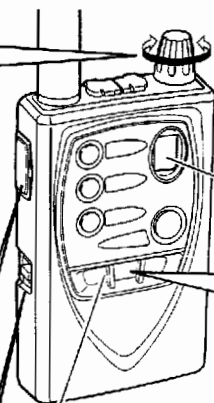
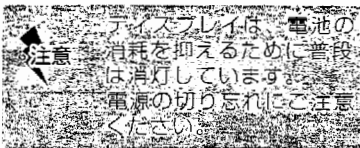
4 受信する

受信すると、スピーカから相手の声が聞こえます。

5 音量を調整する

ダイヤルを1回押すと、「v」→「o」→「L」→「音量値」が表示されます。
ダイヤルを回してお好みの音量に調整します。
PTTキーを押すと表示が消えます。

マイク/スピーカ

注意　ディスプレイは、電池の消耗を抑えるために普段は消灯しています。電源の切り忘れにご注意ください。

基本的な性能

電池について

本機で使用する電池の使用時間、および残量表示について説明します。

使用時間のめやす

[送信1：受信1：待ち受け8] の時間の割合で動作を繰り返した場合のめやすです。

マンガン乾電池	約35時間
アルカリ乾電池	約70時間
ニッケル水素充電池 2000mAhタイプ	約50時間

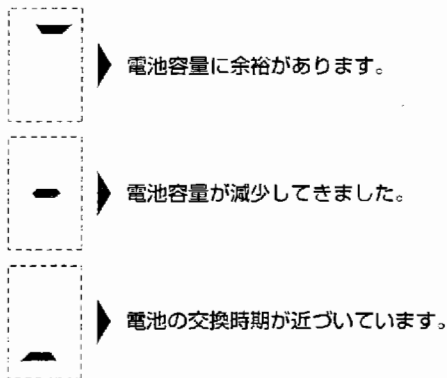
メモ
- 使用環境、周囲温度によって若干変化します。
- 電池は同じ種類の新しいものをご使用ください。
- 大容量のアルカリ乾電池のご使用をお奨めします。

電池容量表示

電池の残容量は10秒に1度ディスプレイに3段階で表示されます。セットモードの設定で電池容量表示をOFFにすることもできます。(☞ P62)

電池容量に余裕があります。

電池容量が減少してきました。

電池の交換時期が近づいています。

基本的な性能

各部の名前とはたらき

本機の各部の名前とはたらきを説明します。

アンテナ

注意 アンテナは外れない構造になっています。無理にアンテナを回したり引き抜いたりしないでください。

PTTキー

押すと送信します。離すと受信に戻ります。各種設定を確定する際にも使います。

電源スイッチ

上方向にスライドさせると電源が入ります。

ディスプレイ

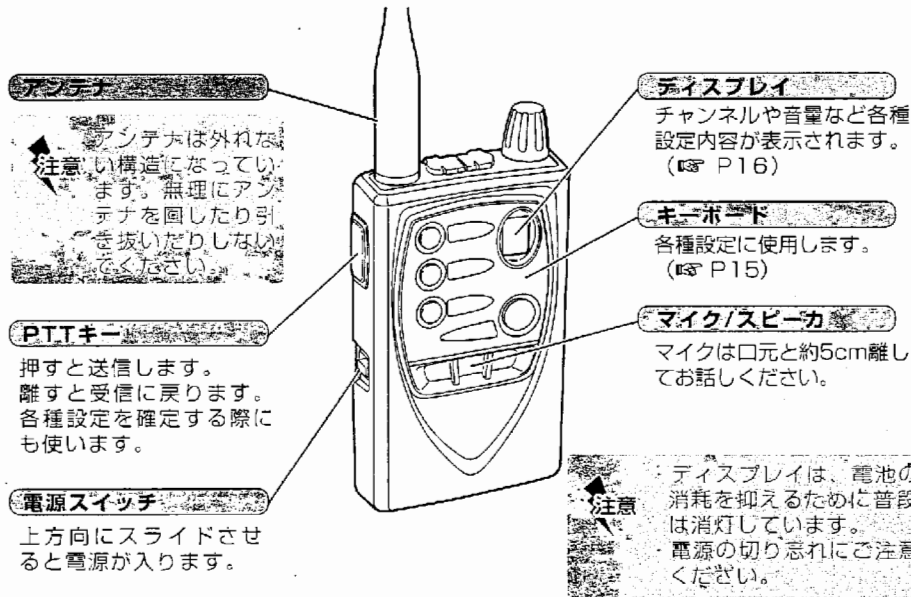
チャンネルや音量など各種設定内容が表示されます。(☞ P16)

キーボード

各種設定に使用します。(☞ P15)

マイク/スピーカ

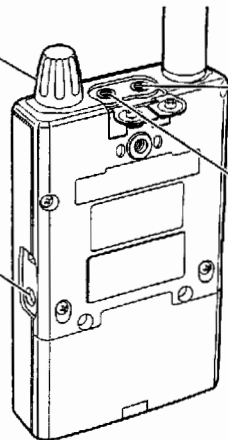
マイクは口元と約5cm離してお話しください。

注意
- ディスプレイは、電池の消耗を抑えるために普段は消灯しています。
- 電源の切り忘れにご注意ください。

ダイヤル、[音量/セットモード]キー

ダイヤルを回してチャンネルの変更など各種設定を行います。ダイヤルを押すと音量調整、F点灯状態で押すとセットモードの項目を選択できます。

DC-IN

外部電源接続端子です。オプションのシガーライターケーブル（EDH-18）を接続すると、車中で使用できます。ニッケル水素充電池、ニッカド充電池を装着しトリクル充電できます。
（☞ P55）

注意 外部電源のプラグの抜き差しは、本機の電源をOFFにしてから行ってください。

イヤホン端子（φ3.5）

イヤホンや外部スピーカを接続する端子です。

マイク端子（φ2.5）

外部マイクを接続する端子です。

キーボード

[トーン]キー/[1]キー

トーン（9種類のグループコード）送出のON/OFF設定をします。Fキーを押した後、トーンキーを押します。
他のトーンスケルチ付きトランシーバーとの通信やレピーターにアクセスする時に使用します。
パーソナルモードではメモリー番号（1）として使用します。

[コード]キー/[2]キー

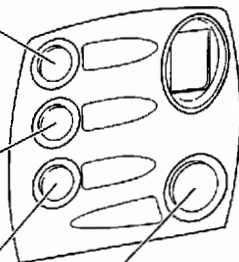
コードスケルチ機能のON/OFF設定をします。Fキーを押した後、コードキーを押します。
パーソナルモードではメモリー番号（2）として使用します。

[モニター]キー/[3]キー

受信中相手の声が途切れる時に使用します。
モニターキーを押している間はスピーカから音が聞こえます。
パーソナルモードではメモリー番号（3）として使用します。

[F]キー（ファンクションキー）/[ロック]キー

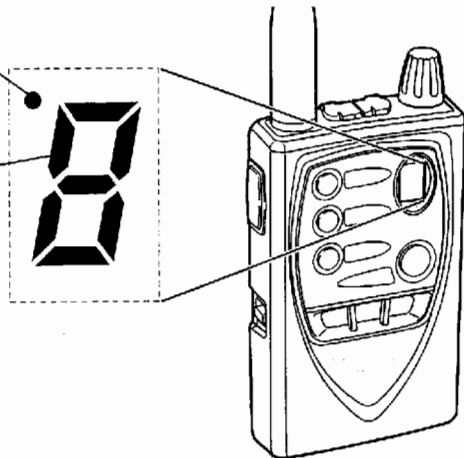
トーン設定、コード設定、セットモードの開始に使用します。
約1秒間押し続けるとキーロックができます。
再度押し続けるとキーロックが解除されます。

・本機にはトーンスケルチ機能はありません。
・コードスケルチ機能は原理上、受信電波が弱い状況では正常に動作しないことがあります。

ディスプレイ

ポインタ

送信中に点灯します。電波受信中にも点灯します。
数字表示と同時に点灯し、各種状態を表します。

数字表示器

チャンネルや音量、各種設定状態を数字やアルファベットにより表します。
また、電池の残量を10秒に1度、3本のバーでお知らせします。
(☞ P12)

ディスプレイのチャンネル表示

チャンネルを変更するには、ダイヤルを回します。ダイヤルを回した後、5秒間チャンネル番号を表示します。(電池使用時)
従来の特定小電力トランシーバーと周波数の互換性はありますが、本機特有のチャンネル番号表示となりますので以下の表を参考にお使いください。

トランシーバーモードなどの単信通話時

単信チャンネル：レジャー9CH+ビジネス11CH

	チャンネル番号 従来機でのチャンネル表示	チャンネル番号 本機でのチャンネル表示
レジャータイプ 9チャンネル	1 ～ 9	1 ～ 9
ビジネスタイプ 11チャンネル	1 ～ 9 10 11	ポインタ+1 ～ ポインタ+9 (ポインタ点灯) ポインタ+0 ポインタ+11

点灯

(例) ディスプレイの「ポインタ」と「1」が同時に点灯すると、ビジネス1チャンネルを意味します。

レピーターモードの半複信通話時

半複信チャンネル：レジャー9CH+ビジネス18CH

	チャンネル番号 従来機でのチャンネル表示	チャンネル番号 本機でのチャンネル表示
レジャータイプ 9チャンネル	10 ~ 18	0 ~ 8
ビジネスタイプ 18チャンネル	12 ~ 19 20 ~ 29	ポインタ+2 ~ （ポインタ点灯） ポインタ+9 ポインタ+0 ~ （ポインタ点滅） ポインタ+9

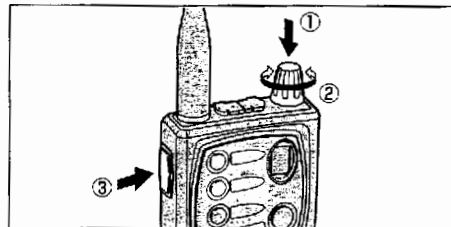
点灯

（例） ディスプレイのポインタと「2」が同時点灯すると、ビジネス12チャンネルを意味します。

点滅

ディスプレイのポインタが点滅しながら「9」が点灯すると、ビジネス29チャンネルを意味します。

音量の調整

本機の音量調整方法を説明します。

①ダイヤルを押します。

→「v」→「o」→「L」→「音量値」が表示されます。

メモ　初期状態は音量値「15」です。

②ダイヤルを回して音量値を調整します。

→表示中にダイヤルを回すと、音量が増減できます。音量値は30段階（0～29）で増減できます。

③希望の音量値を選択したら、PTTキーを押します。

→通常の受信待ち受け状態に戻ります。

音量表示

段階	0~9	10~19	20~29
表示	0~9	ポインタ+0 ~ ポインタ+9 （ポインタ点灯）	ポインタ+0 ~ ポインタ+9 （ポインタ点滅）

●表示例

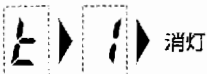
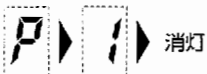
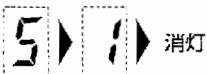
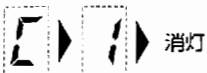
点灯　点滅

音量値9　音量値19　音量値29

基本的な性能　電源ON時/送受信中の表示

本機には5つの通信モードがあります。(☞ P24) 電源ON時および送受信中の、ディスプレイの表示について説明します。

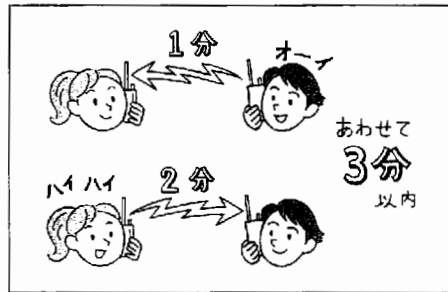
電源ON時

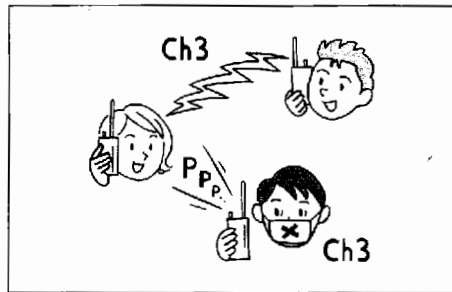
電源ON時、「モード状態を1秒間点灯」→「チャンネル番号を1秒間点灯」→「消灯」します。
工場出荷状態はトランシーバーモードです。

送受信中

送信中はポインタが点灯します。受信中もポインタが点灯します。
電池使用時は、送信から受信に戻った際にチャンネル番号を2秒間表示します。
外部電源使用時、受信待ち受け中はチャンネル番号を表示します。（パーソナルモード以外）

基本的な性能　特定小電力の交信制限について

特定小電力トランシーバーの交信に関する制限事項を説明します。

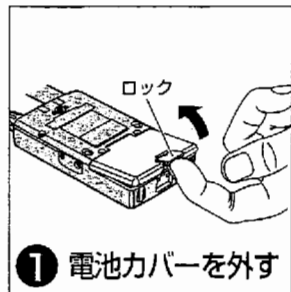
3分制限（3分以上は連続で送信できません）

送信、受信合わせて3分以内です。
10秒前に警告音が鳴り、3分になると自動的に送信は停止します。

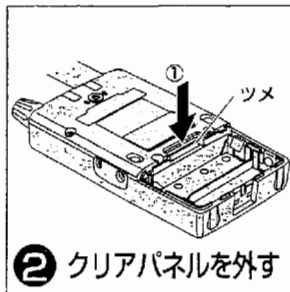
キャリアセンス（受信中は送信できません）

一定の強さの電波を受信している時はPTTキーを押しても送信できません。
受信中にPTTキーを押すとアラーム音が鳴り送信できないことを知らせます。

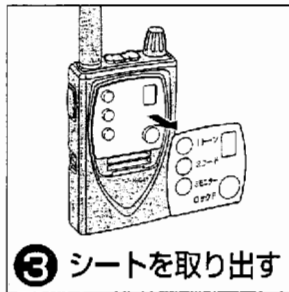
注意　ビープ音をOFFに設定している場合、キャリアセンスが働き送信できない時でもアラーム音は鳴りません。(☞ P58)

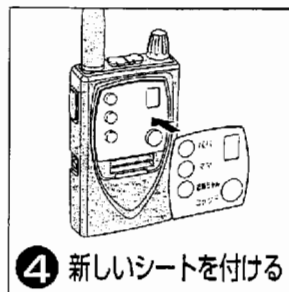
基本的な性能

フェイスシートの交換

付属のフェイスシートや、お客様がデザインしたシートと交換する方法を説明します。

❶ 電池カバーを外す

①ロックを外します。
②カバーを開けます。

❷ クリアパネルを外す

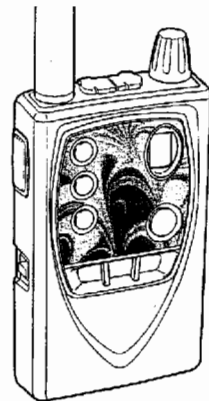
①クリアパネルのツメを押し込みます。
→クリアパネルが浮き上がります。
②浮き上がったクリアパネルを本体から取り外します。

❸ シートを取り出す

クリアパネルの下に挟まっているシートを取り出します。

❹ 新しいシートを付ける

付属のフェイスシートや、お客様がご用意した新しいシートを取り付けます。

❺ クリアパネルを付ける

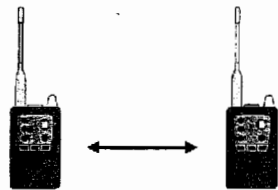
①上部にツメを挿し込みます。
②下部のツメを内側に寄せながら、矢印の方向へ差し込みます。

写真やイラストを使うと、より個性的なトランシーバーに変身させることができます。

5つの通信モード　各モードの概要

本機には5つの通信モードがあります。ここでは5つの通信モードの概要を説明します。

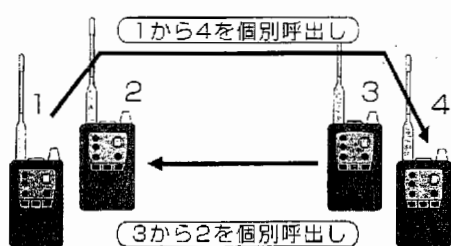
トランシーバーモード（tモード☞ P28）

使用チャンネル
単信レジャー　：1~9CH
単信ビジネス　：1~11CH

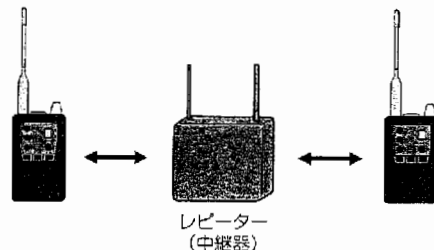
もっとも基本的な単信通話モードです。工場出荷状態で電源を入れると、このモードになります。送信時にPTTキーを押して通話します。通話可能エリア内であれば、同じチャンネルの人は全員交信できます。

メモ　周波数構成が同じである他の特定小電力トランシーバーとも交信できます。

パーソナルモード（Pモード☞ P30）

使用チャンネル
単信レジャー　：1~9CH
単信ビジネス　：1~11CH

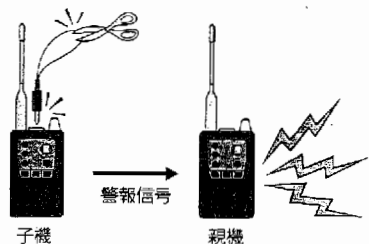
お互いに登録した相手だけを個別に呼び出すことができます。ご家庭でインターホンのような使い方もできます（通信方式は単信）。
本機を含めて4台までを1つのグループとして構成できます。

レピーターモード（rモード☞ P38）

使用チャンネル
半複信レジャー　：10~18CH
半複信ビジネス　：12~29CH

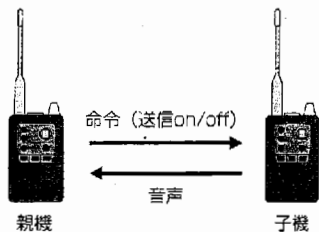
半複信方式のレピーター（中継器）にアクセスできるモードです。レピーター（中継器）を使うことによって、単信通話では電波が届かない相手と交信することができます。
周波数構成が同じ他の特定小電力トランシーバーともレピーター（中継器）を介し交信できます。

セキュリティモード（Sモード☞ P40）

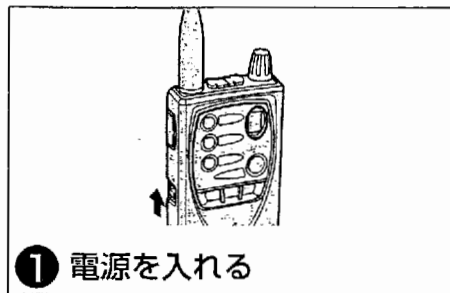
使用チャンネル
単信レジャー　：1~9CH
単信ビジネス　：1~11CH

本機を簡易的な警報装置として利用するモードです。付属のセキュリティケーブルが引き抜かれたり、切断されると、それを親機に知らせます。

注意　あくまでも簡易的な警報機能とお考えください。本機の誤動作、不具合により万が一損害が生じましても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

ケアモニターモード（Cモード☞P43）

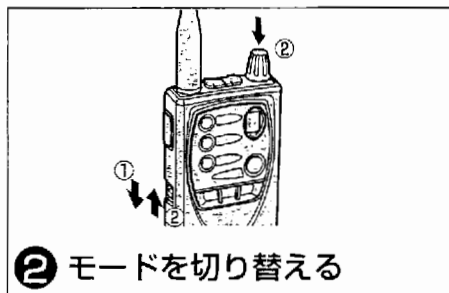
使用チャンネル	
単信レジャー	：1～9CH
単信ビジネス	：1～11CH

本機2台を使って、親機から子機の送信をコントロールできます。乳幼児や病人の監視などに活用できます。

モードの切り替え方法

工場出荷状態で電源を入れると、もっとも基本的なトランシーバーモード（tモード）となります。

❶ 電源を入れる

電源スイッチを入れます。

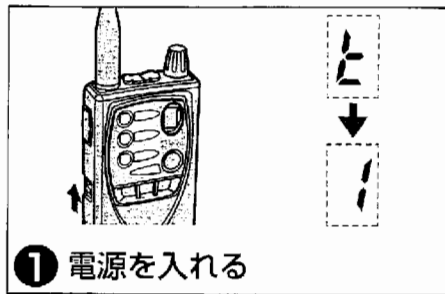
→トランシーバーモード（t）で電源が入ります。

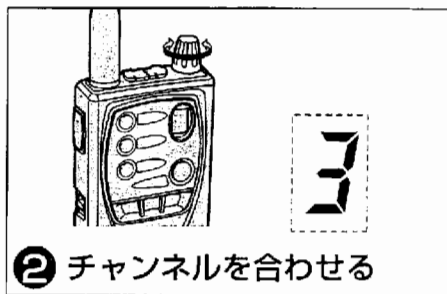
❷ モードを切り替える

①電源をOFFにします。

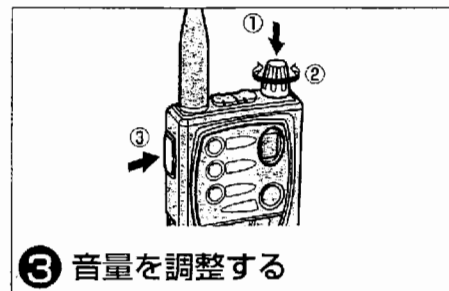
②ダイヤルを押しながら、電源スイッチをONにする操作を繰り返します。

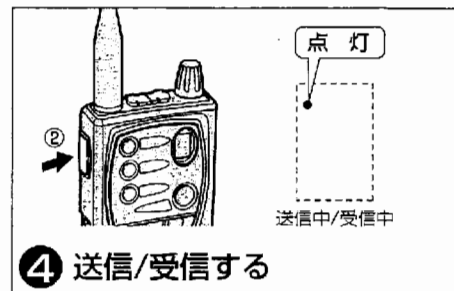
→パーソナルモード（P）→レピーターモード（r）→セキュリティモード（S）→ケアモニターモード（C）→トランシーバーモード（t）→パーソナルモード（P）・・・の順にモードが切り替わります。

5つの通信モード　トランシーバーモードの通信方法

もっとも基本的な単信通話モードです。

❶ 電源を入れる

電源スイッチを上方向へスライドさせます。
→モード表示［t］→チャンネル表示［1］と表示した後、消灯します。（電池使用時）

❷ チャンネルを合わせる

ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。

❸ 音量を調整する

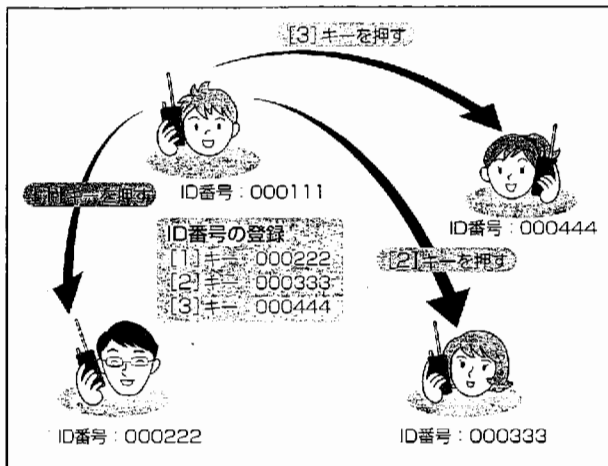
①ダイヤルを1回押します。
②ダイヤルを回して音量値を調整します。
③希望の音量値になったところで、PTTキーを押します。
→音量値の表示が消えます。

❹ 送信/受信する

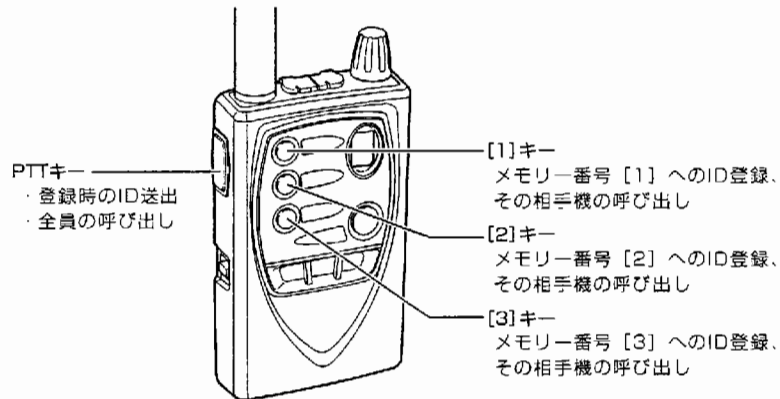
①信号を受信すると、スピーカから相手の声が聞こえます。
→ディスプレイのポインタが点灯します。
②送信時は、信号を受信していないことを確認してから、PTTキーを押したまま、話します。

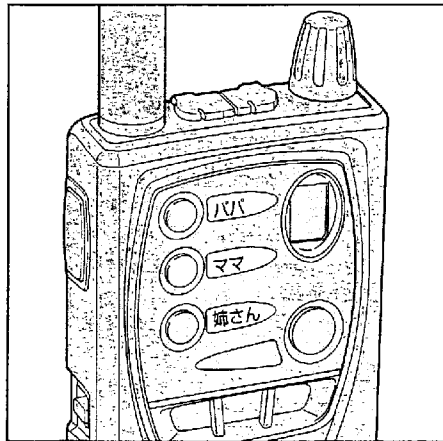
マイクに向けて話すときは、マイクと口元を約5cm離してください。

→ディスプレイのポインタが点灯します。
③PTTキーを離すと、「ピッ」と音が鳴った後、受信待ち受け状態に切り替わります。

5つの通信モード　パーソナルモードの通信方法

4台までのDJ-P21で1つのグループを構成して、個別に呼び出しができるモードです。ご家庭でワイヤレスインターホンの様に使用できます。

各キーの使い方

パーソナルモードでは、各キーの使い方が他のモードと異なります。パーソナルモードでご使用になる場合は、下図を参照してください。

フェイスシートの活用

フェイスシートをお客様で作成して、①②③番号の代わりに名前などを入れることができます。(☞ P22)

操作の流れ

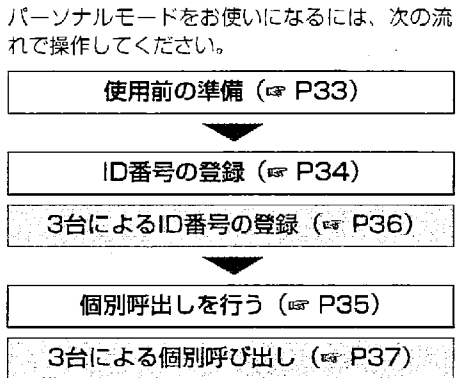
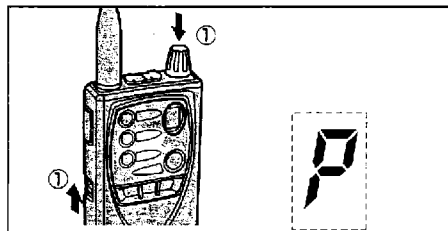
パーソナルモードをお使いになるには、次の流れで操作してください。

使用前の準備（☞ P33）

ID番号の登録（☞ P34）

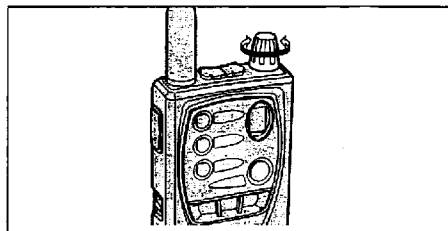
3台によるID番号の登録（☞ P36）

個別呼出しを行う（☞ P35）

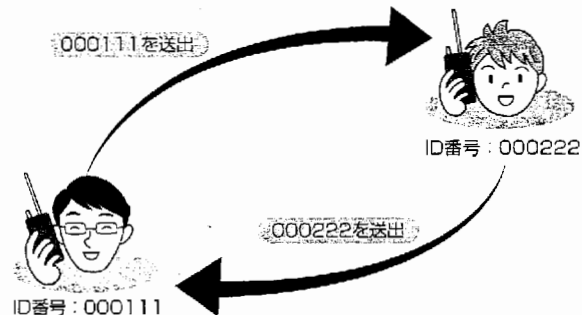
3台による個別呼び出し（☞ P37）

使用前の準備

①ダイヤルを押しながら、電源スイッチをONにします。

②電源ON後に、ディスプレイに「P」と表示されるまで、①の操作を繰り返します。

→「P」と表示されたら、パーソナルモードに切り替わります。

パーソナルモードに切り替えて電源をOFFにすると、次に電源をONにしたときも、パーソナルモードで立ち上がります。

パーソナルモードで、お使いになる全てのセットのチャンネルを合わせます。

ID番号の登録

本機には1台ずつ製造番号と同じ番号がIDとして記録されています。パーソナルモードでは、グループとなる相手機のID番号を、[1] [2] [3] キーのいずれかへ登録します。ID番号は3台分まで登録できます。ここではお互い [1] キーに登録します。

注意 登録内容は上書きされます。ご注意ください。

メモ 登録内容を変更するには、一度消去してから再登録してください。(☞ P61)

PTTキーを押します。

▼

ディスプレイに相手のID番号が順番に表示されます。

▼

ID番号の表示中に、[1] キーを押して、相手のID番号を [1] キーに登録します。

▼

5秒待ちます。

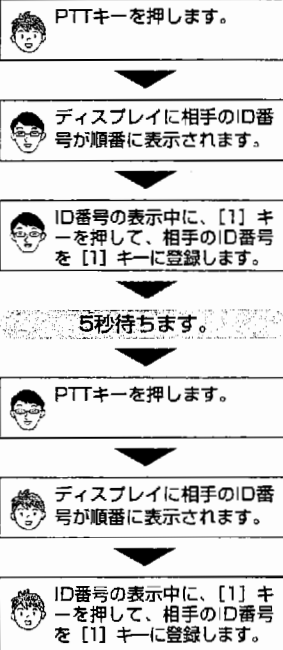
▼

PTTキーを押します。

▼

ディスプレイに相手のID番号が順番に表示されます。

▼

ID番号の表示中に、[1] キーを押して、相手のID番号を [1] キーに登録します。

個別呼び出しを行う

前ページのとおりに、2台がお互いのID番号を登録した場合は、次のようにお互いを呼び出します。

❶ 呼び出し/会話

●呼び出し
が登録されているキー(ここでは [1]キー)を押します。
→ からは呼び出し音が鳴ります。

●会話
が登録されているキー(ここでは [1]キー)を押し続け、「ピピ」音の後に話します。
→ からは「ピピ」音の後に音声が聞こえます。

❷ 応答する

①呼んできた が登録されているキー（ここでは [1]）がディスプレイに点滅し、誰からの呼び出しであるかを表示します。
② を登録しているキー（ここでは [1] キー）を押しながら話します。
→ へ応答しました。

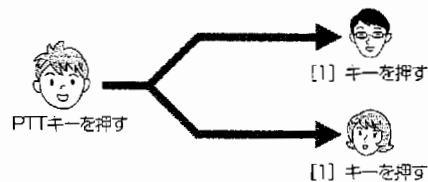
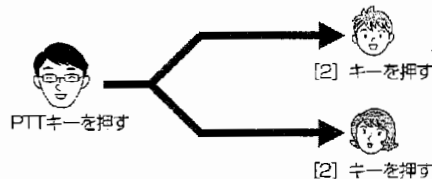
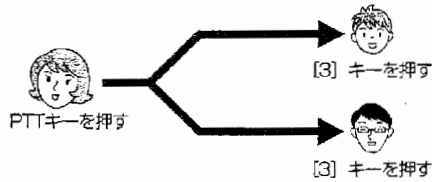
❸ 会話する

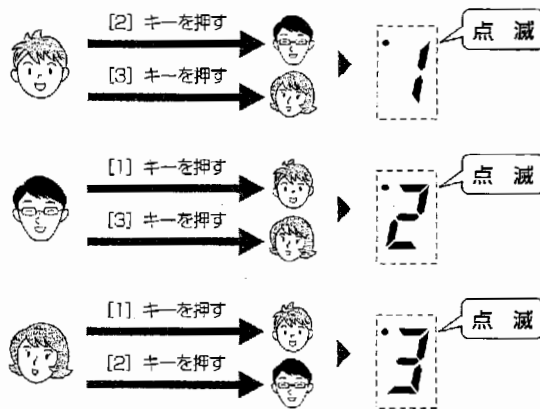
がお互いに登録しているキー（ここでは [1] キー）を押しながら会話します。

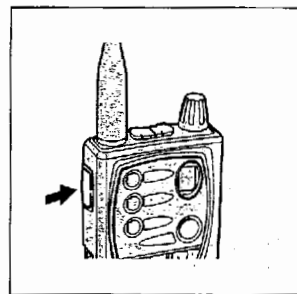
会話終了後は5秒たたないと、次の呼び出し音や「ピピ」音は鳴りません。

3台によるID番号の登録

本機3台でパーソナルモードを利用する場合、次のようにお互いのID番号を登録します。

[1] キー	–		
[2] キー		–	
[3] キー			–

3台による個別呼出し

本機3台でパーソナルモードを利用する場合、次のようにお互いのID番号を登録します。

メモ
・呼び出すには、それぞれのキーを押します。相手機からは呼び出し音が鳴ります。
・会話するには、それぞれのキーを押し続け、「ピピ」音の後に話します。相手機からは「ピピ」音の後に音声が聞こえます。

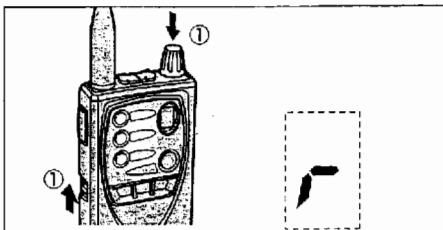
全員呼び出し

●全員を呼び出す

PTTキーを押すと、グループの全員を呼び出せます。

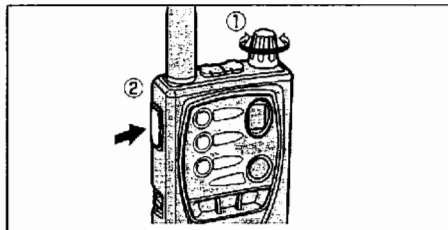
●全員と会話をする

PTTキーを押し続けて「ピピ」音が鳴ると、全員と会話できます。

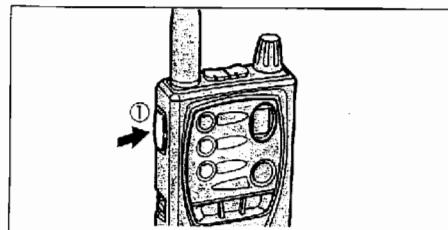
5つの通信モード　レピーターモードの通信方法

通常の交信では電波が届かない場所にいる相手と、レピーター（中継器）を介して交信するモードです。中継器として弊社製DJ-P10R、DJ-R20Dなどが別途必要です。

❶ レピーターモードに切り替える

①ダイヤルを押しながら、電源スイッチをONにします。
②電源ON後に、ディスプレイに「r」と表示されるまで、①の操作を繰り返します。
→「r」と表示されたら、レピーターモードに切り替わります。

レピーターモードに切り替えて電源をOFFにすると、次に電源をONにしたときも、レピーターモードで立ち上がります。

❷ チャンネルを合わせる

①ダイヤルを回して、使用するレピーターとチャンネルを合わせます。
②レピーターにトーン設定されている場合、本機のトーン出力設定をONにしてください。（☞ P46）

注意　お使いになるレピーター（中継器）の設定をご確認ください。

❸ 交信する

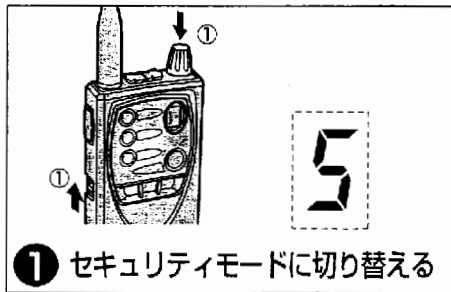
①PTTキーを押し続けます。
→レピーターへのアクセスが成功すれば、約1秒後に「ピピ」という音が聞こえます。
②そのままマイクに向かって話します。
→後は通常の交信と同様の操作です。

❹「プププ・・・」と音がしたら

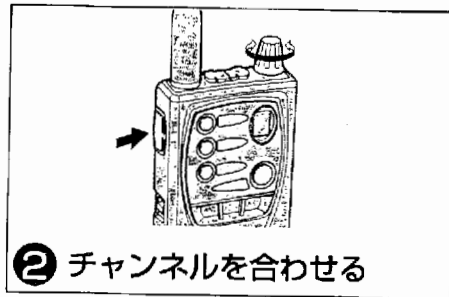
レピーターへのアクセスが失敗した場合、「プププ・・・」と音が出ます。一度PTTキーを離し、再度押し続けてください。
レピーターとの距離が遠く通話エリアにない場合も、「プププ・・・」という音が聞こえます。この場合、レピーターを使用することはできません。

5つの通信モード　セキュリティモードの通信方法

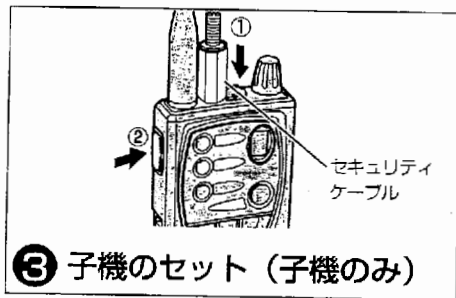
本機を2台使って、簡易的な警報装置として利用するモードです。

注意　あくまでも簡易的な警報機能とお考えください。
本機の誤動作、不具合により万が一損害が生じましても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

❶ セキュリティモードに切り替える

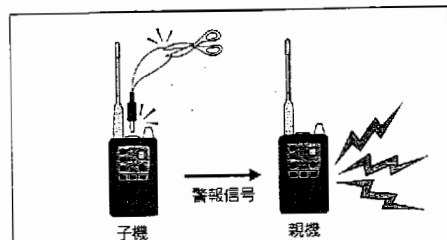
①ダイヤルを押しながら、電源スイッチをONにします。
②電源ON後に、ディスプレイに「S」と表示されるまで、①の操作を繰り返します。
→「S」と表示されたら、セキュリティモードに切り替わります。

セキュリティモードに切り替えて電源をOFFにすると、次に電源をONにしたときも、セキュリティモードで立ち上がります。

❷ チャンネルを合わせる

親機と子機のチャンネルを合わせます。

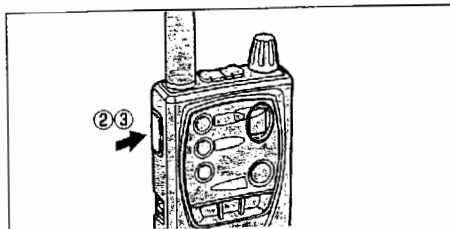
コードスケルチ機能をONに設定することもできます（☞ P48)。その場合コード番号も同じに合わせます。(A~F)

❸ 子機のセット（子機のみ）

①子機（警報送信機）のイヤホン端子にセキュリティケーブルを差し込みます。
②PTTキーを押します。
→LEDディスプレイに「S」→「C」→「r」→「t」と表示され、警報送信機としてセットされます。

5つの通信モード

④ 警報送信

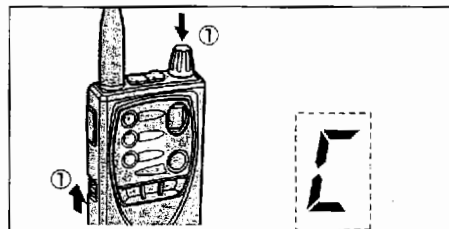
①セキュリティケーブルを抜いたり、切断したりすると、警報送信が始まります。
→親機は子機からの電波を受け、アラーム音が鳴ります。子機に異常があったことを知らせます。

メモ　ケーブルが引き抜かれた場合、子機自体もアラーム音が鳴りますが、ケーブルが切断された場合、子機からはアラーム音が鳴りません。

注意　親機・子機ともに音量を0にしているとアラーム音は聞こえません。

⑤ 警報送信を止める／通話

①警報送信を始めた子機は「5秒間アラーム音送信」→「5秒間音声送信」→「5秒受信」の間欠動作を繰り返します。
②子機の「5秒受信」中に、親機のPTTキーを押します。
→親機からの電波を受信して、子機の警報送信が止まります。子機の警報送信が止まった後、親機と子機の間で通話できます。
③通話するには、PTTキーを押して通話します。

ケアモニターモードの通信方法

本機2台を使って、親機から子機の送信をコントロールできます。乳幼児や病人の監視などに活用できます。

❶ ケアモニターモードに切り替える

①ダイヤルを押しながら、電源スイッチをONにします。
②電源ON後に、ディスプレイに「C」と表示されるまで、①の操作を繰り返します。
→「C」と表示されたら、ケアモニターモードに切り替わります。

メモ　ケアモニターモードに切り替えて電源をOFFにすると、次に電源をONにしたときも、ケアモニターモードで立ち上がります。

❷ チャンネルを合わせる

親機と子機のチャンネルを合わせます。

メモ　コードスケルチ機能をONに設定することもできます（☞ P48）。その場合コード番号も同じに合わせます。（A~F）

❸ 子機のセット

①トーンキーを押します。
②コードキーを押します。
→ディスプレイに〔C〕〔A〕〔r〕〔E〕と表示され、子機としてセットされます。この状態で親機からの送信命令を待ちます。

❹ 子機を送信させる

親機のPTTキーを押します。
→「ピピ」音が鳴り、子機の送信が始まります。子機は、「25秒送信」→「5秒受信」の間欠動作を繰り返します。

メモ 子機の送信時間を50秒に延長できます。
(☞ P63)

❺ 子機の送信を止める

①子機の「5秒受信」中に親機のPTTキーを押します。
→「プププ」音が鳴り、子機の送信が止まります。
②もう一度親機からの送信命令を受けると、また送信を始めます。

注意 子機の電源を入れ直した時は、再度「❸子機のセット」を行ってください。

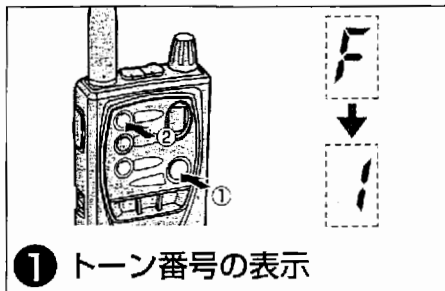
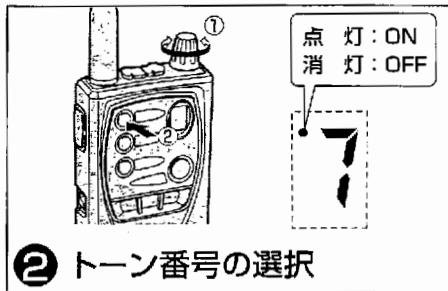
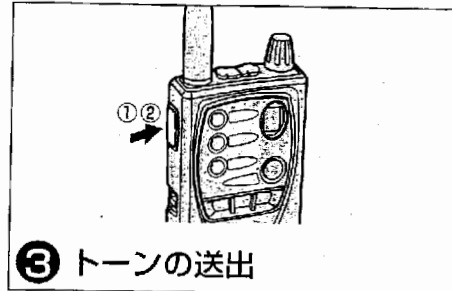
機能一覧

各モードで使用できる機能等を紹介します。

	トランシーバーモード	パーソナルモード	レピーターモード	セキュリティモード	ケアモニターモード
トーン出力機能 (☞ P46) (※1)	○	×	○	×	○
コードスケルチ機能 (☞ P48) (※1)	○	○ (※2)	×	○	○
キーロック機能 (☞ P50)	○	○	○	○	○
モニター機能 (☞ P51)	○	×	○	○	○
緊急通報機能 (☞ P52)	○	×	×	×	×
リセット(初期化) (☞ P53)	○	○	○	○	○

※1：トーン出力機能とコードスケルチ機能は同時に使用できません。
※2：登録したID番号別に呼び出します。

便利な機能　トーン出力

交信する相手機（本機以外）にトーンスケルチ機能（グループトーク機能）がある場合や、トーン設定された中継器にアクセスする場合に使用します。

❶ トーン番号の表示

①Fキーを押します。
②「F」の点灯中にトーンキーを押します。
→「1」が点灯します。（トーン番号が1の場合）

❷ トーン番号の選択

①ダイヤルを回して、トーン番号を選択します。
→1～9の間でトーン番号が変化します。
②希望のトーン番号が表示されたら、トーンキーを押します。
→ポインタが点灯します。これでトーン出力機能が使用できます。もう一度トーンキーを押すと、ポインタが消灯して、トーン出力機能がOFFになります。

❸ トーンの送出

①PTTキーを押して確定します。
→設定が確定します。電池使用時は表示が消えます。

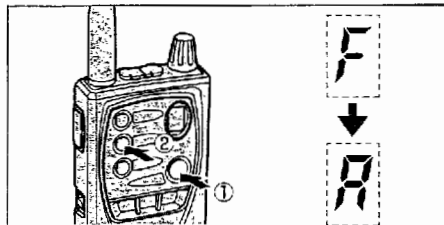
外部電源使用時は、チャンネル表示に戻ります。

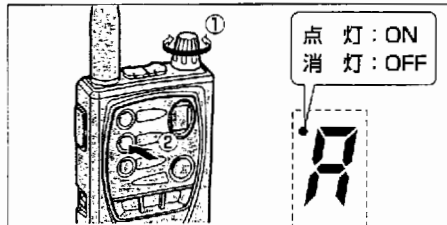
②再びPTTキーを押して送信します。
→音声とともにトーン（☞ P69）が送出されます。

便利な機能

便利な機能

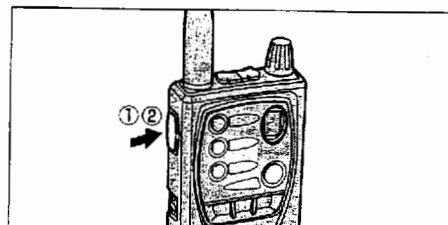
コードスケルチ

コードスケルチ機能を使うと、同じコード番号に設定した人とだけ交信でき、混信を防ぐことができます。交信したい相手と、チャンネルおよびコード番号を合わせます。

❶ コード番号の表示

①Fキーを押します。
②「F」の点灯中にコードキーを押します。
→「A」が点灯します。(コード番号がAの場合)

❷ コード番号の選択

①ダイヤルを回して、コード番号を選択します。
→A~Fの間でコード番号が変化します。

パーソナルモードで相手機のコードが登録されていれば、A~Fの後に1~3が加わり、それらのコードも使用できます。

②希望のコード番号が表示されたら、コードキーを押します。
→ポインタが点灯します。これでコードスケルチ機能が使用できます。もう一度コードキーを押すと、ポインタが消灯しコードスケルチ機能がOFFになります。

❸ コード信号の送出

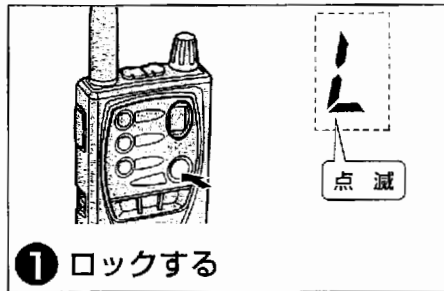
①PTTキーを押して確定します。
→設定が確定します。電池使用時は、表示が消えます。

外部電源使用時、チャンネル表示に戻ります。

②再びPTTキーを押して送信します。「ピピ」音が鳴ってからお話しください。
→PTTキーを押した直後、約1秒間はコード信号が送出されます。

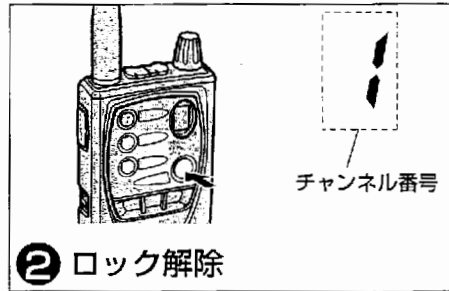
キーロック

キーロックを設定しておくと、誤作動などによる設定変更を防止できます。

❶ ロックする

Fキーを1秒以上押し続けます。

→「ピピピピピ」音が鳴り、「L」が点滅します。

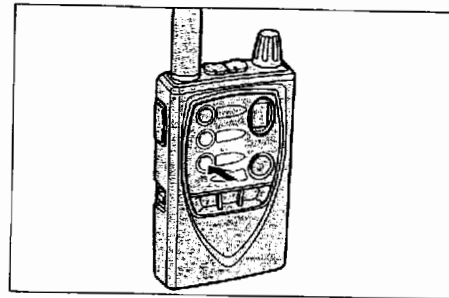
・キーロック中でも送信、モニター操作、音量調整は操作可能です。
・キーロック中に電源を入れ直すとロック状態で電源が入ります。「モード」→「L」→「チャンネル番号」と表示されます。

❷ ロック解除

解除するには、再度Fキーを1秒以上押し続けます。

→「ピピ」音が鳴り、チャンネル番号を表示します。

注意　キーロック中にダイヤルを回すと、「L」が点滅して、ロック中であることを知らせます。Fキーを押すと「ブッ」音（無効音）が鳴り、ロック中であることを知らせます。キーロックを解除してから各操作を行ってください。

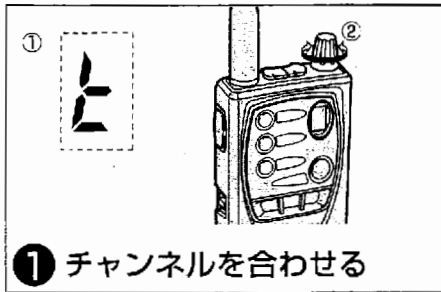
モニター

受信中に相手の声が途切れる時などに、相手の声をスピーカから出力する機能です。

モニターキーを押し続けます。

→相手の声がスピーカから音が聞こえます。

注意　パーソナルモード時は「3」キーとして機能するため、モニター操作はできません。

緊急通報機能

本機を簡易的な緊急通報装置として使う機能です。普段はトランシーバーとして使用し、万が一の際には相手機にアラーム音で知らせます。

❶ チャンネルを合わせる

①本機2台をトランシーバーモードにします。
②本機2台のチャンネルを合わせます。

通常は、音声通話用のトランシーバーとして使用します。

❷ 送信/受信する

①ダイヤルを3秒以上押します。
　→緊急通報が10秒間送信します。

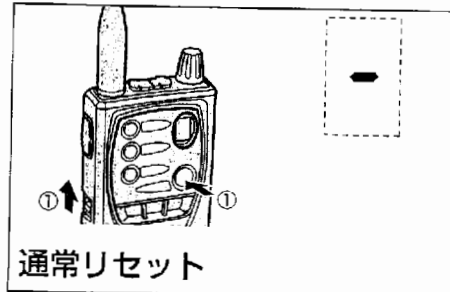
セットモードで「ケア送信延長機能」をONにすると、20秒間送信します。(☞ P63)

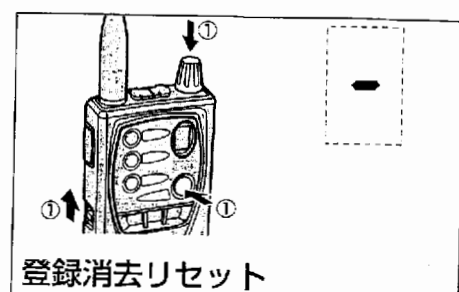
②相手機は緊急信号を受信し、アラーム音が鳴ります。

注意 音量を0にしていると、アラーム音は鳴りません。

リセット（初期化）

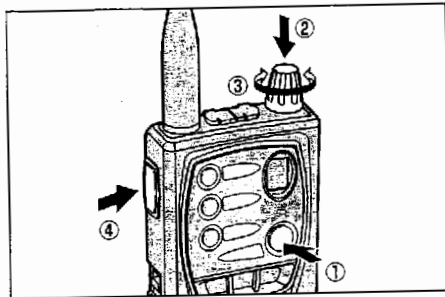
リセットすると工場出荷状態に戻り、初期状態のトランシーバーモードになります。

通常リセット

①Fキーを押しながら電源を入れます。
②「-」の表示中にFキーを離します。

登録消去リセット

①Fキーとダイヤルを押しながら電源を入れます。
　→パーソナルモードで登録したID番号を一括消去して、リセットします。
②「-」の表示中にFキーとダイヤルを離します。

セットモード　セットモードの設定と設定一覧

セットモードは、各種機能をより使いやすくするために、本製品をカスタマイズする機能です。
次の項目が設定できます。

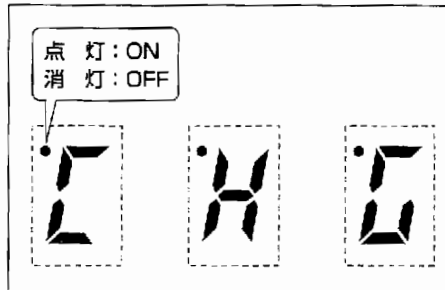
設定方法

①Fキーを押します。
②「F」点灯中にダイヤルを押します。
→セットモードの項目が切り替わります。
③ダイヤルを回して、ON/OFFを切り替えます。
④PTTキーを押して、設定を確定します。

設定一覧

設定名	初期設定
充電機能（☞ P55）	OFF
バッテリセーブ（☞ P56）	ON
エンドピー（☞ P57 ※1）	ON
ビープ（☞ P58）	ON
スケルチレベル（☞ P59）	3
自局ID番号表示（☞ P60）	-
他局ID番号消去（☞ P61）	-
バッテリ表示（☞ P62）	ON
ケア送信延長機能（☞ P63 ※2）	OFF
PTTオフ機能（☞ P64）	OFF
蚊除け機能（☞ P65）	OFF

※1：セキュリティモード、ケアモニターモードでは使用不可
※2：ケアモニターモードでのみ使用可能

セットモード　充電機能（CHG）

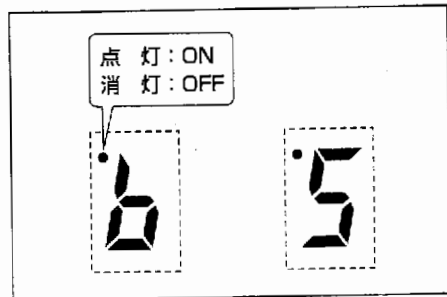
ニッケル水素充電池またはニッカド充電池を装着し、外部電源端子よりトリクル充電できます。

①Fキーを押し、「F」の点灯中にダイヤルを1回押します。
→「C」→「H」→「G」と表示されます。
②ダイヤルを回して、ON/OFFを切り替えます。
→ポインタが点灯するとONとなり、充電できます。
③PTTキーを押して、設定を確定します。
→充電を続ける場合、本体の電源はONのままにしてください。

充電時間のめやす	
1000mAhタイプ	：約20時間
2000mAhタイプ	：約40時間

注意　・本体の電源がON状態でのみ充電できます。
・充電中も運用できます。
・単三乾電池装着時は絶対に充電しないでください。液漏れなどの原因となります。

メモ　初期状態では、OFFに設定されています。

セットモード　バッテリセーブ（bS）

待ち受け状態が5秒以上続くと、内部電源を定期的にON/OFFさせて、電池の消費を抑える機能です。

初期状態ではONに設定されています。

①Fキーを押し、「F」の点灯中にダイヤルを2回押します。
→「b」→「S」と表示されます。
②ダイヤルを回して、ON/OFFを切り替えます。
→ポインタが点灯するとONとなり、バッテリがセーブできます。
③PTTキーを押します。
→設定が確定します。

セットモード　エンドピー（EndP）

PTTキーを離した時の「ピッ」音のON/OFFを設定します。

初期状態ではONに設定されています。

注意　セキュリティモード、ケアモニターモードでは使用できません。

①Fキーを押し、「F」の点灯中にダイヤルを3回押します。
→「E」→「n」→「d」→「P」と表示されます。
②ダイヤルを回して、ON/OFFを切り替えます。
→ポインタが点灯すると、エンドピー機能がONとなります。
③PTTキーを押します。
→設定が確定します。

セットモード

ビープ（bEEP）

本機から鳴るビープ音（操作音）のON/OFFを設定します。

①Fキーを押し、「F」の点灯中にダイヤルを4回押します。
→「b」→「E」→「E」→「P」と表示されます。

②ダイヤルを回して、ON/OFFを切り替えます。
→ポインタが点灯すると、ビープ機能がONとなります。

③PTTキーを押します。
→設定が確定します。

セットモード

スケルチレベル設定（SqL）

スケルチレベルを設定します。スケルチとは、受信時に信号がない時の「ザー」という雑音を消す機能です。

・初期状態ではスケルチレベルが3に設定されています。
・設定値を大きくするほど強い信号でスケルチが開くようになります。
・0に設定すると受信信号がなくてもスケルチは開いたままになります。

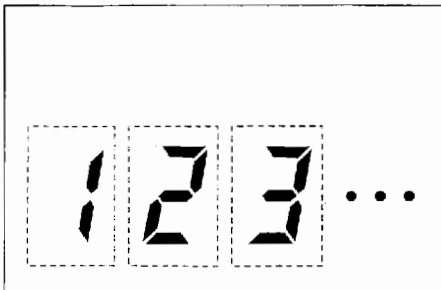
①Fキーを押し、「F」の点灯中にダイヤルを5回押します。
→「S」→「q」→「L」→「3」と表示されます。

②ダイヤルを回して、レベルを調整します。
→レベルは、0～5の間で調整できます。

③PTTキーを押します。
→スケルチレベルが確定します。

セットモード

自局ID番号表示

本機のID番号が参照できます。ID番号は、本体裏に貼り付けてある製造番号と同じです。

①Fキーを押し、「F」の点灯中にダイヤルを6回押します。

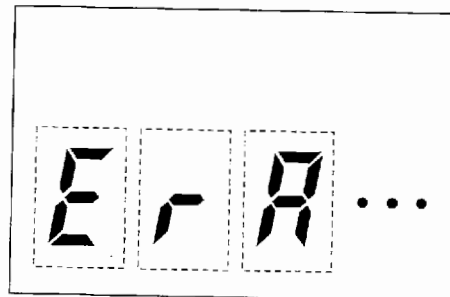
→6桁のID番号（製造番号）が順に表示されます。

②PTTキーを押します。

→通常の状態に戻ります。

セットモード

他局ID番号消去

パーソナルモードで登録済みの、相手機のID番号を消去します。

①Fキーを押し、「F」の点灯中にダイヤルを7回押します。

→「E」→「r」→「A」→「S」→「E」と表示されます。

②［1］キー、［2］キー、［3］キーのいずれかから、消去したい番号のキーを押します。

→「ピー」音が鳴りメモリー内容が消去されます。

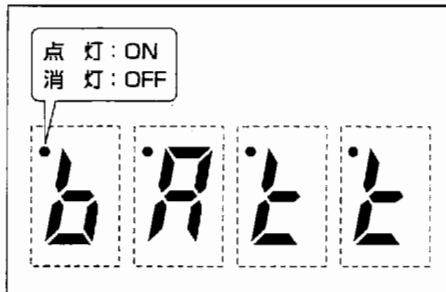
③PTTキーを押します。

→通常の状態に戻ります。

セットモード バッテリ表示（bAtt）

電池容量表示と電源切り忘れアラームのON/OFFが設定できます。

①Fキーを押し、「F」の点灯中にダイヤルを8回押します。
→「b」→「A」→「t」→「t」と表示されます。
②ダイヤルを回して、ON/OFFを切り替えます。
→ポインタが点灯すると、バッテリ表示機能がONとなります。
③PTTキーを押します。
→通常の状態に戻ります。

初期状態ではONに設定されています。

●電池容量表示
電池使用時、10秒に1度、電池の残容量を表示します。

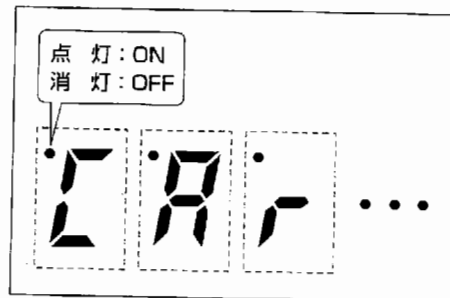
電池容量に余裕があります。

電池容量が減少してきました。

電池の交換時期が近づいています。

●電源切り忘れアラーム
電源切り忘れ防止のため、無操作状態が30分以上続いた場合、「ブブブ」というアラーム音が鳴ります。以後10分おきにアラーム音が鳴り、電源がONのままであることを知らせます。

セットモード ケア送信延長機能（CArE LonG）

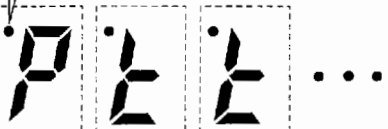
ケアモニターモード子機の送信時間を延長できます。

①Fキーを押し、「F」の点灯中にダイヤルを9回押します。
→「C」→「A」→「r」→「E」→「L」→「o」→「n」→「G」と表示されます。
②ダイヤルを回して、ON/OFFを切り替えます。
→ポインタが点灯すると、ケア送信延長機能がON（50秒送信）となります。
③PTTキーを押します。
→通常の状態に戻ります。

ケアモニターモード	
初期状態	：25秒送信/5秒受信
本機能ON	：50秒送信/5秒受信

・初期状態はOFF（25秒送信）に設定されています。
・本機能をONにすると、緊急通報機能の送信時間が20秒になります。（☞ P52）

注意…ケアモニターモード以外では使用できません。

セットモード　PTTオフ機能（PttoFF）

本機を受信専用で使用する場合などに、本機からは送信できないようにする機能です。PTTキーを押しても送信できません。

初期状態はOFFに設定されています。

①Fキーを押し、「F」の点灯中にダイヤルを10回押します。

→「P」→「t」→「t」→「o」→「F」→「F」と表示されます。

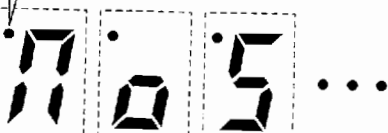
②ダイヤルを回して、ON/OFFを切り替えます。

→ポインタが点灯すると、PTTオフ機能がONとなります。

③PTTキーを押します。

→通常の状態に戻ります。

セットモード　蚊除け機能（MoSqUito）

本機のスピーカから蚊の嫌がる超音波を発生させる機能です。

初期状態はOFFに設定されています。

注意

・世界には、およそ数千種類の蚊が生息しており、蚊除け機能が効かない種類の蚊もいます。

・蚊除け機能をONに設定すると、常時超音波を発生するため、バッテリセーブ機能は働かなくなり、電池の消耗が早くなります。

①Fキーを押し、「F」の点灯中にダイヤルを11回押します。

→「M」→「o」→「S」→「q」→「U」→「i」→「t」→「o」と表示されます。

②ダイヤルを回して、ON/OFFを切り替えます。

→ポインタが点灯すると、蚊除け機能がONとなります。

③PTTキーを押します。

→通常の状態に戻ります。

各チャンネルの送受信周波数

単信チャンネル(レピータモード以外)

レジャー9CH+ビジネス11CH

	従来機でのチャンネル番号	本機でのチャンネル表示	送受信周波数(MHz)
レジャータイプ 9チャンネル	1	1	422.2000
	2	2	422.2125
	3	3	422.2250
	4	4	422.2375
	5	5	422.2500
	6	6	422.2625
	7	7	422.2750
	8	8	422.2875
	9	9	422.3000
ビジネスタイプ 11チャンネル	1	ポインタ+1	422.0500
	2	ポインタ+2	422.0625
	3	ポインタ+3	422.0750
	4	ポインタ+4	422.0875
	5	ポインタ+5	422.1000
	6	ポインタ+6 ポインタ点灯	422.1125
	7	ポインタ+7	422.1250
	8	ポインタ+8	422.1375
	9	ポインタ+9	422.1500
	10	ポインタ+0	422.1625
	11	ポインタ+11	422.1750

半複信チャンネル(レピータモード)

レジャー9CH+ビジネス18CH

	従来機でのチャンネル番号	本機でのチャンネル表示	受信周波数(MHz)	送信周波数(MHz)
レジャータイプ 9チャンネル	10	0	421.8125	440.2625
	11	1	421.8250	440.2750
	12	2	421.8375	440.2875
	13	3	421.8500	440.3000
	14	4	421.8625	440.3125
	15	5	421.8750	440.3250
	16	6	421.8875	440.3375
	17	7	421.9000	440.3500
	18	8	421.9125	440.3625
ビジネスタイプ 18チャンネル	12	ポインタ+2	421.5750	440.0250
	13	ポインタ+3	421.5875	440.0375
	14	ポインタ+4 ポインタ	421.6000	440.0500
	15	ポインタ+5 点灯	421.6125	440.0625
	16	ポインタ+6	421.6250	440.0750
	17	ポインタ+7	421.6375	440.0875
	18	ポインタ+8	421.6500	440.1000
	19	ポインタ+9	421.6625	440.1125
	20	ポインタ+0	421.6750	440.1250
	21	ポインタ+1	421.6875	440.1375
	22	ポインタ+2	421.7000	440.1500
	23	ポインタ+3 ポインタ	421.7125	440.1625
	24	ポインタ+4 点滅	421.7250	440.1750
	25	ポインタ+5	421.7375	440.1875
	26	ポインタ+6	421.7500	440.2000
	27	ポインタ+7	421.7625	440.2125
	28	ポインタ+8	421.7750	440.2250
	29	ポインタ+9	421.7875	440.2375

付録

付録

セットモードメニュー

	ディスプレイ表示	操作方法
充電機能	CHG	Fキー → ダイヤル1回押し
バッテリセーブ機能	bS	Fキー → ダイヤル2回押し
エンドピー機能	EncP	Fキー → ダイヤル3回押し
ビープ機能	bEEP	Fキー → ダイヤル4回押し
スケルチレベル設定	ScL	Fキー → ダイヤル5回押し
自局ID番号表示	******	Fキー → ダイヤル6回押し
他局ID番号消去	ErASE	Fキー → ダイヤル7回押し
バッテリ表示	bAtt	Fキー → ダイヤル8回押し
ケア送信延長機能	CArE LonG	Fキー → ダイヤル9回押し
PTTオフ機能	PttoFF	Fキー → ダイヤル10回押し
蚊除け機能	MoSqUito	Fキー → ダイヤル11回押し

付録

トーン周波数/オプション一覧

トーン周波数

トーン番号	出力トーン周波数（Hz）
1	67.0
2	71.9
3	74.4
4	77.0
5	79.7
6	82.5
7	85.4
8	88.5
9	91.5

オプション一覧

本製品のオプション一覧です。

EDH-18　シガーDC／DCコンバーター（DC12V系）
EMS-9　スピーカマイク
EME-6　プチ型イヤホン
EME-12A　VOX付きヘッドセット（ヘッドホンタイプ）
EME-13A　VOX付きヘッドセット（インナータイプ）
EME-15A　VOX付きタイピンマイク
EME-19A　ヘルメット用ヘッドセット
EME-20　イヤホンマイク
EME-21A　タイピンマイク

故障とお考えになる前に

本製品が故障かな?と思ったら、まずこちらをお読みください。

症状	原因	処置
電源が入らない。	電池の入れ方が間違っている。	電池を正しく入れ直してください。
	電池が消耗している。	新しい電池と交換してください。充電池を充電してください。
音が出ない。受信できない。	音量が低すぎる。	適切な音量に設定してください。
	相手とチャンネルが違う。	同じチャンネルに合わせてください。
	相手と距離が離れすぎている。	交信距離を目安に交信してください。
	コードスケルチが働いている。	コードスケルチを解除してください。同じコード番号に合わせてください。
	PTTキーが押されて、送信状態になっている。	PTTキーを離してください。
「ザー」という雑音が出る。	スケルチレベルが低すぎる。	適切なスケルチレベルに設定してください。
送信できない。	信号を受信している。	信号がなくなってから送信するか、チャンネルを変更してください。
	通信モードを間違っている。	電源を入れ直して、通信モードを確認してください。
	交信制限時間を超過している。	PTTキーを離し2秒たってから、再度送信してください。
	PTTオフ機能が働いている。	セットモードでPTTオフ機能をOFFに設定してください。
キーを操作できない。チャンネルが変わらない。	キーロックされている。	キーロックを解除してください。

●処置を施しても異常が続くときは、リセット（初期化）してください（☞ P53）。症状が回復する場合があります。

●電池が消耗していると、まれに誤動作することがあります。新しい電池に交換すると正常な状態に戻る場合があります。

定格

項目		内容
送受信周波数	レジャーチャンネル	421.8125～421.9125MHz（受信） 422.2000～422.3000MHz（送受信） 440.2625～440.3625MHz（送信） （12.5KHzステップ）
	ビジネスチャンネル	421.5750～421.7875MHz（受信） 422.0500～422.1750MHz（送受信） 440.0250～440.2375MHz（送信） （12.5KHzステップ）
電波形式	F3E（FM）	
送信出力	10mW	
受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン	
受信感度	－14dBu以下（12dB SINAD）	
音声出力	80mW以上	
消費電流	送信時 約50mA	
	受信定格出力時（50mW） 約80mA	
	受信待ち受け時 約40mA	
	バッテリセーブ動作時（平均） 約15mA	
通信方式	単信方式、半複信方式	
定格電圧	DC2.4V～3.0V	
外部電源	EIAJ規格 区分2 DC4.5V～6.0V	
動作温度範囲	－10℃～＋50℃	
中間周波数	1st IF 21.7MHz	
	2nd IF 450KHz	
寸法	58（W）×100（H）×19（D）mm（突起物除く）	
重量	150g（乾電池含む）	